



国民の森林・国有林

中部森林管理局

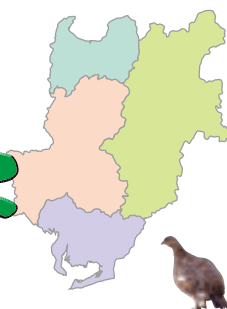
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

# 中部の森林



愛知県豊川市内の小学生に森林の働きについての説明を行っている様子

## 森林の役割や重要性を 森林環境教育で伝える

(P2に関連記事)

| 主 な 項 目                                 |    |
|-----------------------------------------|----|
| ○ 管内各地域において「教職員を対象とした森林・林業体験学習研修会」を開催 … | P2 |
| ○ 各地からのたより .....                        | P3 |
| ○ 風景紀行 .....                            | P8 |

## 管内各地域において

## 「教職員を対象とした森林・林業体験学習研修会」を開催

## 「指導普及課」

## 「木曽森林環境保全ふれあいセンター」

八月三日に北信地域及び上伊那地域、八月四日に木曽地域、八月五日に東信・松本地域と、長野県内五つの地域の小中学校等の教職員の方々を対象とした森林・林業体験学習研修会を、長野県との共催により、各地域の国有林を主なフィールドとした四会場において開催しました。

この研修会は、森林環境教育の手法等についての学習を通じ、森林・林業の役割や森林環境教育の重要性についての認識を高めるとともに、森林環境教育が学校教育の中に積極的に取り入れられるよう促すことを目的としたもので、各会場ともフィールドの特色を生かし、思考を凝らしたプログラムによる学習を行いました。

北信及び東信・松本地域では、黒姫高原（北信署管内 黒姫山国有林ほか）や美ヶ原高原（中信署管内 美ヶ原国有林ほか）において、高原地帯に生育する貴重な動植物の観察や、学校の校庭や近隣の里山でもできる自然を使った遊びやゲームの実践、のこぎりを使った間伐作業や三角定規や各種測定機材等を使って

の測樹体験、伐採跡地の見学等を行いました。

特に自然を使った遊びやゲームの実践では、学校やクラスにおいて、身近な場所を活用し、児童・生徒の皆さんが楽しみながら自然と向き合い、学ぶことができ、先生方も気軽に実践していただけるメニューを体験し、参加者の皆さんは、時折童心に返ったような表情を浮かべながらゲームに取り組み、学校での実践に向け、意欲的に手法を吸収していました。

上伊那地域では木曽署管内の奈良井国有林及び周辺地域において、「木曽山用水の歴史や経緯、地域住民と国有林との関わり」について学習し、講師である上戸



ネイチャーゲームの実践（黒姫高原）



間伐作業の体験（美ヶ原国有林）

中条水利組合の組合長から、当時、肥沃な土地がありながら、水不足に悩む西筑輪地区の農民の手により、延長十二キロにも及ぶ水路を開削した経緯や通水の苦労話等、実際の水路を見学しながら詳しく説明を受け、先生方からは、昔のお百姓さんの米作りに対する強い思いが感じられ、学校教育にも取り入れるよう検討したいとの声が聞かれました。

また、二酸化炭素吸収源対策で進められている間伐実施箇所での現地説明や、「森の巨人たち百選」に指定されているジャンボカラマツの見学を行いました。

木曽地域では、油木沢ヒノキ植物群落保護林をはじめ、黒沢御岳国有林に生息する貴重な動植物の観察を行い、油木美林内では、人々が加わって成林し、樹齢

三百年以上とされるヒノキの純林を目の前にした先生方が、圧倒された表情を浮かべながら、森林を守り育ててきた先人達に感謝する言葉が聞かれました。

現在、多くの小中学校が、総合学習等の授業を活用し、また、環境クラブ等の活動により、地球温暖化や自然破壊等の環境問題や、森林や自然の働きや大切さ、林業についての学習を積極的に行っています。が、「昔に比べて自然に親しむ機会が少ない。」「学校の近くに緑が少ない（無い）。」等の課題もある中、参加された教職員の皆さんは、しっかりとした目的意識をもって研修に臨んでいました。

## 「名古屋事務所」 森林環境教育研修会

名古屋事務所は八月十日、尾張旭市の小・中学校の教職員を対象とした森林環境教育研修会を、瀬戸国有林の森林交流館で開催しました。

この研修会は、学校教育に携わる教職員自身が、森林を利用した教育プログラムを体験することで、森林の役割や重要性について再認識し学校教育に役立たせていくことを目的に実施したもので、尾張旭市教育委員会が募集した、市内の小・中学校から十四名の先生の参加がありました。

研修会では、始めに国有林の概要説明と中部森林管理局や名古屋事務所の取り組みなどについてのプレゼンテーション



イラストを使った森林教室の手法を研修

のあと、名古屋事務所が行っている森林体験教育メニューの中から、模型やイラストを使った「丸太切り」、鉛筆立てや壁飾りなどの「木工クラフト」、植物の種の話を変えた「飛ぶ種の模型作り」を実際に体験してもらいました。普段の学校の教室とは違って、自然の中で行うクラフトや種飛ばしなど、どれも興味深く体験していただけでした。

午後からは、青山裕子愛知県ネイチャーゲーム協会理事長を招き、ネイチャーゲームが自分も自然の一部であることへの『気づき』を促すことを目的にしていることを、実際のゲームを通して楽しみながら学びました。

一日の研修会を終えて、参加した先生方からは、「森林の大切さを子供達にも伝えていきたい」「実際に体験して楽しさがわかった。生徒達にも体験させたい」などの感想が寄せられました。



木の葉のカルタ取りを実体験

### 社会貢献の森 「風とせせらぎの森林」協定調印

【富山署】 八月四日、富山市ファミリーパーク自然体験センターホールにおいて、きんたろう倶楽部（会長…西藤徳三 富山大学学長）と富山森林管理署が「社会貢献の森」による森林整備協定の調印式を行いました。

今回の調印の対象となった富山市稲代にある大沢野国有林周辺は、強風が吹き、家屋や田畑が近隣にあることから、東西に約千五百メートル、幅平均二十メートルの二八六畝全体が防風保安林に指定されています。近年、スギ造林地にモウソウチクが侵入してきたので、富山で里山再生に取り組んでいるNPO法人のきんたろう倶楽部と協働で、平成十九年からタケの伐採を実施し、また、伐採したタケ



タケの除去作業（大沢野国有林）



調印式の様子

をチップ化しての歩道新設も併せて実施してきました。

きんたろう倶楽部は、当国有林の整備を最後まで行いたいとの意向を示したことから協定を締結することにした。協定により当地は「風とせせらぎの森林（もり）」と命名され、タケの除去の他に、空地への植樹・保育や整備協定の看板の設置等を行うこととしています。



間伐等の作業方法を説明

### 各地からのたより

#### 大学生が森づくり

#### ボランティアに参加

【南信署】 七月十日、長野県富士見町の西岳国有林において、大学生協が主催する「長野の森づくりボランティア」が開催され、東京農業大学、早稲田大学などの東京近郊の学生と、信州大学の学生六十六名が参加しました。

当日は、南信森林管理署、長野県森林インストラクター協会、信州大学技術職員などの指導のもと、ヤツガタケトウヒの間伐、玉切り、搬出の作業を実施しました。作業内容等の説明を聞いている時

の学生たちの横顔は大人ですが、木に触れたり香りを感じている時は子どものような笑顔をを見せていました。

当ボランティアが国有林内で行われたのは、昨年に続いて二回目ですが、実施に当たって、信州大学農学部 of の学生サークル「伊那守」のメンバーらが森林官と下見をするなど、スタッフとして運営に主体的に関わり、他学部、他大学からの参加者をサポートしている点が特徴です。そのため単なる体験にとどまらず、学部・学校などの壁を越えて交流しつつ森林・林業への理解を深める場になっています。

実施後のアンケートでは、「林業に関する理解が深まり、考えるきっかけになった」「早稲田大・社会科学部四年」、



玉切り作業を行う大学生



搬出作業お疲れ様でした

「日本人がそんなに木を使っているなんて知らなかった」(東農大・地域環境科学部一年)、「とてもよい体験でした」(信大・人文学部一年)等の意見が寄せられ、当署としても学生たちと意見交換を行う機会となるなど有意義な実施となりました。

当ボランティアは来年以降も継続される予定であり、学生たちが森林づくりの大切さを学ぶ機会として、当署としても協力していきたいと考えています。

### 「レクリエーションの森」で オフィシャルサポーターが 遊歩道整備

【木曽署】七月二十七日、長野林業土木協会木曽支部会員三十一名が、「レクリエーションの森」となっている木曽御岳自然休養林内の田の原天然公園で遊歩道整備ボランティアを行いました。

田の原天然公園の遊歩道は湿原植物の踏み荒らしを避けるため、延長三<sup>キロメートル</sup>の木道を、「レクリエーションの森」オフィシャルサポーター協定を締結した「アサヒビール株式会社」と「田の原天然公園の環境を守る会」が整備を進めています。

本年も七月三日に、アサヒビールグループ社員による歩道整備ボランティア活動を実施しましたが、悪天候のため、予定していた整備が完了せず、提供を受けた遊歩道資材を仮置きしたまま、次回

エーションの森」(木曽御岳自然休養林内の田の原天然公園で遊歩道整備ボランティアを行いました。



木道の整備を行う土木協会の皆さん

の活動が未定の状態となりました。そこで、土木協会木曽支部が社会貢献活動の一環として、未完了となった遊歩道を登山や夏休みの観光客が訪れる前に完了させたいと整備を申し出たことから、今回のボランティア活動の実施となりました。

当日は、晴天に恵まれたものの、標高二千以上の高地は下界の猛暑とは別世界のさわやかな涼風に作業もはかどり、予定していた木道約六十<sup>メートル</sup>が完成し、更に東屋の老朽化していたベンチ修理までも終了することができました。

地元の王滝村からは、散策者の通行が確保され、安全な観光シーズンを迎えることができると感謝され、地域に貢献する良い機会となりました。

### 下流域住民と森林整備の協働作業

#### 「伝統工芸の森」で汗

【南木曽支署】八月三日、「南木曽伝統工芸の森」(南蘭国有林六百九林班)において、「南木曽伝統工芸の森育成協議会」の構成員である南木曽ろくろ工芸協同組合、蘭松笠生産協同組合の他、名古屋シティ・フォレスト隊員十四名の計三十一名が森林整備作業(下刈等)に汗を流しました。

「南木曽伝統工芸の森」は、南木曽町の工芸品であるろくろ細工や松笠、サワラ桶の関係者からなる南木曽伝統工芸の森育成協議会と当支署の間において、森

林整備を通じ、木の文化の継承を目的とし、平成十八年に協定を締結し、整備している場所です。

南木曽町長から「この森の木が使えるのは何百年も先だが、地道な下支えがあつてこそ、伝統工芸が残っていく。下流域の方々と手を携えて木や緑を守っていければ」とあいさつがありました。

参加者は猛暑の中、草刈作業に汗を流し、「山が好き。出来る範囲で森林づくりを手伝いたい」「作業をすることによっていい空気を吸っていい汗をかくことができる」などの感想が聞かれました。

今回、作業をした林が南木曽ろくろ細工等の伝統工芸品の材料として利用できるまでには長い年月がかかります。

今後も、地域だけではなく、下流域の住民とともに協働で取り組むなど「木の文化を支える森づくり」について情報発信していくこととしています。



下刈りの他歩道の整備作業も実施



作業を終えた参加者の皆さん

### 的確な林道・治山災害等把握に向けて 現地研修を実施

〔南木曽支署〕 七月九日、基幹作業職員を含む全職員を対象に南木曽国有林下山沢林道において林道など土木災害の調査方法について研修を実施しました。木曽谷南部に位置する当署は降水量が多い年で三千ミリメートルに達し、ひとたび雨が降り出すと何処かしこで大なり小なりの崩壊等被害が発生します。そこで、土木係と治山係が講師となりポールやリボンテープを活用し災害報告第一報時の写真撮影や野帳の記入等のポイントを現地において



署一体となって実践的な研修実施

て、実践的に研修を行いました。今まで四苦八苦しながら撮影していた写真もスムーズに出来るようになりました。今回の研修では個々の事例に照らした簡単な撮影マニュアルも作成し、研修後も適時対応出来るように工夫しました。

まさに、「備えあれば憂いなし」。七月十二日から降り続いた梅雨豪雨被害について、三人一組の十数班体制で調査を実施しました。各班とも研修成果を遺憾なく発揮した確かな状況把握と報告をスムーズに実施することが出来ました。

今後も、今回の研修のように署が一体となり効果的な業務の遂行に努めて参ります。

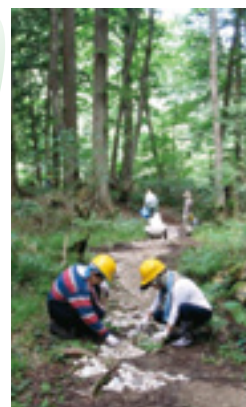
### 宮の大イチイ自然観察歩道の整備 「名屋シティ・フォレスト」事業

〔飛騨署〕 七月二十三日、「森の巨人『宮の大イチイ』」につながる自然観察歩道を整備しよう」をテーマに宮国有林において歩道の整備などを行いました。

「宮の大イチイ」は、高山市一之宮町の宮国有林に自生する、日本でも最古級のイチイです。この大イチイにつながる一周約四百メートルの自然観察歩道は所々足場が悪く歩きづらい状況にあつたため、今回名古屋シティ・フォレスト事業においてその整備を行うこととなりました。

梅雨明け後の開催で当日も暑い一日となりましたが、作業を行った宮国有林内は比較的涼しく快適に作業を行えました。午前中は、班に分かれて歩道と林内の水場の整備を行いました。歩道整備では、近くを流れる「ツメタ谷」から石を運んできて敷き詰める作業を行い、石運びを任された参加者は大粒の汗を流しながら作業に取り組んでいました。午後からは木製ベンチの設置も行い、協力して仕上げたベンチの出来に参加者も満足げな様子でした。活動の最後には自然観察会が行われ、森林官による大イチイの説明に皆熱心に聞き入っていました。参加者からは、「宮の大イチイまではなかなか来ることが出来ないの、そんな場所で作業が出来て良かった。」「天然林に覆われた林内は気持ちが良い、快適に作

業が出来た。」との感想をいただき、宮  
国有林ならではの作業を楽しんでいた  
けたようでした。



歩道整備で石を敷き詰める参加者

## 森林環境教育 最盛期

「愛知所」次世代を担う子供達へ、NP  
Oや教育関係機関と連携・協働して実施  
している森林環境教育「裏谷原生林自然  
観察案内」は、平成十二年から毎年行わ  
れており、今年も五月二十日から九月  
十六日まで豊川市内の小学校二十五校、  
一千八百九十五人の児童を対象に実施し  
ております。

二泊三日の宿泊体験学習にあわせて行  
われるため、夏休みに入る七月下旬に集  
中し、盛夏の今が最盛期となっており連  
日職員が交代により講師対応していま  
す。

自然観察案内が始まる前の四月には、  
対応する職員を対象に研修会を開催し、  
講師としてのレベルアップとスキルアッ  
プを図り、質の良い森林環境教育となる  
よう努めております。

蜂やダニ・ウルシなど危険な動植物に  
は十分注意を払い、また、天候が急変し



段戸湖の前にて子供達とともに

た場合は、柔軟にプログラム変更を行っ  
て、児童達が安全に楽しく五感を通じて  
森林の役割や大切さを学んでいます。

## 平成二十二年 度

## 永年勤続職員表彰式

平成二十二年度中部森林管理局永年勤  
続職員表彰式が行われ、城土局長から一  
級精勤章受章者並びに二級精勤章受章者  
に対し、永年にわたる国有林野事業職員  
としての勤労を称えるとともに、精勤章  
の賞状が授与されました。

精勤章受章者は次の方々です。

### ◇一級精勤章

(勤続年数三十年以上)

技 柳澤 元雄 (企画調整室)  
技 筒井 康司 (職員厚生課)  
技 長田 昌幸 (計画課)  
技 岩下 良治 (森林整備課)



一級精勤章受章者

技 渡邊 修 (森林整備部)  
技 岩倉 豊樹 (富山署)  
技 谷澤 功志 (北信署)  
技 小須田 啓 (東信署)  
基 須田 千治 (〃)  
技 山本 文男 (南信署)  
技 織部 諭 (〃)  
技 木内 重明 (木曾署)  
技 中畑 孝史 (〃)  
技 宮澤 昌弘 (南木曾支署)  
技 稲川 年秋 (飛騨署)  
技 橋本 角則 (飛騨署)  
技 金森 晋 (岐阜署)



二級精勤章受章者

### ◇二級精勤章

(勤続年数二十年以上)

基 伊東 良市 (岐阜署)  
技 三浦 勝巳 (東濃署)  
技 小竹 尚久 (〃)  
技 川浪亜紀子 (計画課)  
技 光坂 紀治 (富山署)  
技 藤井 勝 (北信署)  
技 芳沢 真一 (木曾署)  
技 中屋 健次 (東濃署)

二十名

五名

# 人のうごき

中部森林管理局人事

八月一日付

▽森林整備部治山課技術専門官（伊那谷総合治山事業所）（木曽署治山課技術専門官） 杉本 彰二

▽木曽森林管理署治山課技術専門官（森林整備部治山課技術専門官（伊那谷総合治山事業所）） 三島 文雄

▽北信森林管理署木島平森林事務所森林官（木曽署駒ヶ岳森林事務所森林官） 西村 進

▽中信森林管理署治山課治山第四係長（木曽署治山課治山第一係長） 小嶋 友和

▽南信森林管理署治山課治山第二係長（中信署治山課治山第四係長） 中屋 忍

▽木曽森林管理署治山課治山第一係長（南信署治山課治山第二係長） 佐藤 義和

▽木曽森林管理署駒ヶ岳森林事務所森林官（北信署木島平森林事務所森林官） 大橋 孝宏

▽中信森林管理署業務課付（中信署波田森林事務所森林官） 岩崎 剛

▽富山森林管理署業務課駐在（森林育成係）（富山署神通森林事務所） 向山 剛

## 安全作業で 幅広い業務を実施

飛騨森林管理署町方森林事務所班

「飛騨署」当事務所は古都高山市の東側、乗鞍岳の山麓に広がる国有林約四千七百㍓を管理しています。

管内の乗鞍岳は中部山岳国立公園の南端に位置し標高二千七百㍓の畳平までは乗鞍スカイラインが通じており手軽にバスやタクシーで登れることから年間二十万人以上の観光客が可憐な高山植物や美しい山岳の風景を求めて訪れます。また、乗鞍岳の山腹に官民併せて三千㍓に広がる秘境五色ヶ原は日本最後の中間山地地帯の自然景観の保全を目的にした日本初の認定ガイド同行の入山規制を設けており、年間約五千人がその貴重な自然を体感しています。



啓蒙看板制作中の職員



林道維持作業中の職員

町方現場班は林道維持作業や造林地の歩道整備を中心に森林保全管理業務や森林官補助まで幅広い仕事を担っています。何でも器用にそつなくこなすためにはかの森林事務所からも重宝がられてあちこちへの応援も多く事業の最盛期には獅子奮迅の活躍です。

伝統的に安全に対する意識が強く、朝夕のTBMやラジオ体操をはじめ意識高揚のポスター掲示や安全衛生標語への多数応募など安全に対する積極的な行動は大いに学習すべきことです。

安全に確実に仕事をすることをモットーにしていますが多種多様な地域にわたる業務は日々異なる環境条件や危険因子を伴います。目の前のことはもちろん

のこと、長い経験がはぐくんだ先々までを見越す眼力を発揮して安全に快適に効率よく仕事を進めたいと思います。

## 行事・会議の予定

◎岐阜県における健全で豊かな森林づくりの推進に関する覚書締結式

9月2日 岐阜県庁

◎親子森林体験隊

9月4日 八ヶ岳（白駒の池）

◎ふれあい講座

9月4日 愛知県瀬戸市 森林交流館

◎長野県森林づくり指針第4回専門会議

9月9日 長野県庁

◎木曽川・森づくりin赤沢

9月11日 赤沢自然休養林

◎名古屋シティ・フォレスト事業

9月15日 東濃署管内

9月28日 北信署管内





## 豊橋自然歩道 (豊橋国有林)

中部局管内の最南端、愛知県と静岡県境に位置し、標高わずか五十メートルから四百メートルほどの丘陵地で、赤石山脈末端の山稜が豊橋国有林です。

一帯は、石巻山をはじめとした展望絶佳な弓張山系や、「嵩山の蛇穴」「葦毛湿原」など、地質・植物学上も貴重な所が多い地域で、石巻山多米県立自然公園に指定されています。

「自然歩道」といえば東京と大阪を結ぶ「東海自然歩道」が有名ですが、「東海自然歩道」の計画が発表された昭和四十三年、そのルートが、豊橋市内を通らないことを知った市内の自然愛好家の団体代表が集まり、「豊橋独自の自然歩道を作ろう!」と一念発起し、翌四十四年、石巻山自然歩道の整備から始まり、今日まで大岩町の東山(松明峠)から石巻町の(中山峠)まで稜線総延長十六キロメートルの本線と、二川自然歩道支線など十五の支線・巡回遊歩道が市民団体により整備されました。

既存歩道の一部は、歴史的に見ても古くは、信仰の道、交易の道、森林資源の運搬の道として、山中につくられていたが、初期の目的を失い荒れ果て消失寸前の状態から「自然に親しむ遊歩道」としてよみがえったのです。

歩道本線は中央部にある坊ヶ峰を中心に、南北に縦貫している稜線部からは、富士山が展望できる眺望箇所をはじめ、遠州灘や三河湾、南アルプス、浜名湖が展望出来ます。

また、周辺の山麓には、植物群の宝庫として人気がある「葦毛湿原」や、奈良時代に創建されその後幾多の兵火に遭いつつも数々の重要文化財が保存されている「普門寺」をはじめ、京都と鎌倉を結ぶ鎌倉街道として戦国時代も重要な戦略拠点であった「船形山城址」などの名所・史跡が点在しております。

四季を通じて散策や山歩きを楽しむことができ、アクセス箇所も多いことから身近な自然歩道として豊橋市民に親しまれています。

近隣住民の方には健康維持・増進のため日課として歩いている方もみえます。

### 《所在地》

愛知県豊橋市(豊橋国有林及び大沢国有林)

### ◆アクセス(主な登山口)

#### ○二川コース

JR二川駅から豊橋自然歩道の南の起点、松明峠まで徒歩約四十分

#### ○葦毛湿原コース

豊橋鉄道「飯村・岩崎線」「岩崎」バス

停降車、三百三十メートル程東に登山口、豊橋自然歩道本線まで徒歩約五十分

#### ○普門寺コース

JR新所原駅から普門寺まで徒歩約六十分

#### ○中山コース(大沢国有林)

豊橋鉄道「西郷小学校前」バス停降車、一・五キロメートル東に中山自然歩道登山口



豊橋自然歩道本線コース



普門寺本堂



歩道本線から浜名湖・豊橋市内方面を望む



船形山城：なだらかな稜線が船底の形に見えることから船形山と呼ばれる。左側の山頂に城址